

ICTを活用した授業実践

喜茂別町立喜茂別小学校 学級数8 (校長 木村 明彦)

I 実践の趣旨

本校では、コロナ禍における児童の学習機会の保障や、全ての児童の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、令和2年度よりICTを活用した授業実践に積極的に取り組んできた。

今年度は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、ICTの効果的な活用の在り方について研修を深め、児童の資質・能力の育成を目指し授業改善に取り組むこととした。

II 実践の概要

1 オンライン授業実施に向けた取組

新型コロナウイルスの影響で、休校が続いた令和2年5月、本校は、児童の学びを保障するため、町教育委員会と連携して、オンライン授業を実施した。

オンライン授業の導入に当たり、まず、6年生家庭全戸のICT環境の実態調査を実施し、Wi-Fi環境が整備されていない家庭には、町教育委員会がモバイルWi-Fiを貸し出した。

学校は、分散登校日に、タブレット端末の操作方法や活用のルールを指導し、6年生全員にタブレット端末を持ち帰らせ、オンライン授業を開始した。



【オンライン授業導入時の様子】

2 オンライン授業の実践

(1) 家庭への授業配信

当初、「先生の声が聞きにくい」「黒板が見えにくい」との児童の反応があり、その都度、教員は、ゆっくり話したり、タブレットの位置を変えたりして、工夫改善を重ねた。児童の顔を見て、声を実際に聞いて学習を進めることができるよさを教職員全体で共有した。また、学校は接続に関する不具合などが発生した場合は、電話や家庭訪問を通じてトラブルを解消するよう努めた。



【学校と家庭とを結んだ遠隔授業】

(2) 学校間でのオンライン授業

実際に行き来して行っていた学校間交流がコロナ禍によりできなくなってしまった。しかし、オンラインを活用することで、活性化することができると考え、本校と町内の小学校とをオンラインでつないだ学校間交流を実施した。

交流では、ホスト機のパソコンの他、全児童のタブレット端末を活用して、一人一人の表情が分かるようにした。また、両校の全児童がマイク付ヘッドホンを着用したことで、発表を聞いてうなずいたり、笑ったりする様子が見られた。



【学校間交流の様子】

3 「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

本校では、ICTの効果的な活用を目指し、今年度、主体的・対話的で深い学びの視点から、「自分の考えを深め、学び合う子どもの育成」を研究主題とし、授業改善を行っている。タブレット端末内のデジタル教科書を活用することで、個別最適な学びや支援、可視化が難しかった学びの知見の共有が可能となり、授業の質の向上につながっている。



【デジタル教科書を使って学ぶ様子】

(2) デジタル教科書の効果的な活用方法についての検証

第2学年「筆算をつくろう」では、児童は、画面上の数字を操作することで、問題にいくつも取り組み、習熟を図ることができた。第5学年「合同と三角形、四角形」では、児童は、画面上で図形を動かすことで、合同な図形についての理解を深めた。このように、本校教員は、検証授業を通して、デジタル教科書の効果的な活用方法を探り、指導の個別化、学習の個性化を目指し、授業改善に取り組んでいる。

III 実践の成果 (○) と課題 (●)

- デジタル教材を活用し、課題設定や具体物の操作にかかる時間を短縮することで、自力解決や振り返り、発展問題の時間を十分に確保することができ、個々の理解が深まってきた。
- ICTの活用が有効な場合と、そうでない場合があり、実践を積み重ね、見極める必要がある。また、児童の機器操作能力の差を埋めるための活動も必要である。